

## 令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：沖縄県石垣市

協定締結日：2020年3月24日

活動状況：継続中

連携先窓口：石垣市役所企画政策課田盛氏

活動資金：寄付金

担当教員(所属)：大浦裕二(食料環境経済学科)、上岡美保(国際食農科学科)、  
大林宏也(森林総合科学科)、江口文陽(森林総合科学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：上田智久(自然資源経営学科)、大浦裕二(食料環境経済学科)、  
上岡美保(国際食農科学科)、大林宏也(森林総合科学科)、江口文陽(森林総合科学科)

活動目的：下記事項の連携と推進を目的とする。

- (1) 地域産業資源を利活用した6次産業化と人材育成に関する事項
- (2) 環境保全・地域づくりに関する事項
- (3) 教育・文化振興に関する事項
- (4) 就職支援に関する事項
- (5) 農林水産業振興に関する事項
- (6) その他石垣市と東京農業大学が相互に必要として考える事項

活動内容・成果：東京農業大学は、石垣島の農林水産物および伝統食品である"ハーブ類"、醸造飲料である"泡盛"などの研究に取り組み、それらの希少価値を解明するとともに有用性などの成果を確認している。また、石垣島で人工的に栽培される微細藻類や新規農林水産物生産、(石垣牛・海ぶどう)のブランド製品についても研究者・院生および学生が研究・事業に参画しており、これらの研究を契機として石垣島の産業振興、環境保全並びに人材育成等に寄与することを目的とした連携をこれまでと同様に行った。

特にこれまでの成果としては、石垣島で微細藻類やハーブの生産基地を整備している株式会社日健総本社(代表取締役社長森伸夫氏)との共同研究が展開されており、産業政策や事業従事者の雇用実績として東京農業大学は石垣島へ卒業生を多く輩出している。さらに沖縄県立八重山農林高等学校が東京農業大学

の指定校となり、学校長推薦による優秀な人材を学生として受け入れることが継続実施され、卒業生は石垣島での事業従事者として輩出する3年目となった。さらに、小中高校生と大学との交流活動として石垣市教育委員会を窓口として児童や生徒の東京農業大学サマーサイエンススクールへ招聘してきたが、コロナ禍につきオンラインによる講演が実施された。また石垣市や石垣市内に生産基地を有する株式会社日健総本社の計らいで沖縄県立八重山農林高校での学長の出張講義が対面で実施された。それらの活動は、八重山日報や沖縄ローカルテレビでも紹介され東京農業大学の石垣市への貢献が市民にも周知された。地域との連携による学問や研究に対する啓蒙活動なども実績も挙げた。

課題・改善点：これまでは石垣島と東京農業大学との連携は、教職員の個人研究と研究室の教育・研究活動として成果を得てきたが、さらに形ある事業展開へと繋げてゆく時期になった。学長の江口による中山市長を表敬訪問なども実施されたことで次年度への新たな取り組みが模索されつつある。

我が国最大の総合農学を推進する東京農業大学との連携を強化することで、石垣市に専門的知見や助言、産物の付加価値が与えられ、農林水産物・加工食品の保蔵や産業振興の取り組みが活性化されることを期待して今後も取り組みたい。

(写真は包括連携協定による事業が新聞に掲載されたものである)

